

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導  ※ JSL=Japanese as a second language	①確かな学力の定着および学習習慣の確立に向けた取組を行う。 ②自己肯定感とコミュニケーション力の向上を目指し、一層の授業改善をすすめる。 ③個々の能力・状況に応じた学習支援体制を整える。 ④日本語を母語としない (JSL ※) 生徒に対しても確かな学力の保証をはかる。	①生徒の主体性を引き出す授業を実践し、生徒が「わかる」「学力がついた」と実感できるようにする。 ③生徒の状況に応じた個別支援体制を整える。	①生徒が主体的に取り組めるよう授業研究・授業改善を進め、確かな学力の定着とともに達成感を得られるようにする。 ③個々の生徒の状況に応じて補習や学習支援などが行えるよう、環境整備に努める。	①生徒による授業評価の項目4「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。」において、評価4, 3の計が90%を越えるか。 ③昼休みや放課後の時間確保ができたか。教室や職員室前スペースなどの学習環境整備ができたか。					
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	①地域の中の学校として地域とともに規範意識の向上を図り、リーダーシップを育成する事でコミュニケーション能力の向上をめざす。 ②個別支援を積極的に推進し個々に応じた指導を行う。 ③中学校との連携や交流を生かし、部活動・学校行事の活性化を図る。 ④生徒の主体的な学校行事への取組を推進する。その活動を通して自己肯定感の醸成とコミュニケーション力の向上を図る。	①規範意識の醸成と問題行動の未然防止に努め、地域貢献できる人材を育成する。 ②不登校等学校生活に馴染めない生徒に対し全職員で組織的に対応する。 ③授業や生徒会活動、部活動において中学校との交流の機会を増やす。	①地域と積極的に関わり規範意識の向上を様々な場面で学べるような場を作り出していきたい。 ②学校生活に馴染めない生徒を早めに見つけ出し関わる事で不登校の出現率を押さえたい。 ③部活動においては、中学校との合同練習会や講習会等の実施を推進する。また、ワーキンググループ等を通して中学校との生徒会役員の交流を図る。	①学校から外に出て学ぶ場面を多く作り出すことが出来たか。 ②不登校の出現率を5%以内におさえる事ができたか。 ③中高交流活動が多く交流ができ、十分な成果を挙げることができたか。また、生徒会活動に新たな取り組みのきっかけになる機会になったか。					

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①総合的な探究の時間の活用を含む地域と連携した取組を用いながら、生徒の3年間を見通した指導により、自分の価値観を見つめ、関心分野を広げ深めた上で、主体的に希望する進路指導を実現する。	①総合的な探究の時間の活用を中心としたキャリア教育の推進により将来を見据えた進路選択が可能となる進路指導体制を確立し、保護者を含めた生徒のための進路支援体制を構築する。	①総合的な探究の時間の活用を組織的に、かつ継続的なものとして構築する。探究活動や成果発表などの探究の手法を進路決定に活用する。また、保護者向け説明会など保護者の進路意識を高める働きかけを行い、生徒とともに進路活動を進める体制を構築する。	①生徒が自ら目標を設定し、挑戦できたか。 ・総合的な探究の時間を活用できたか。 ・生徒の進路希望の達成率85%以上の達成をしたか。 ・教員研修により進路指導スキルが向上したか。 ・保護者向けの進路行事を構築できたか。				
4	地域等との協働	①学校運営協議会を中心に地域との協働を目指す。また、地域・学校協働本部との連携を円滑にし、学校外の学修を推進する。	①中高連携の活動を活性化させるとともに、地域・学校協働本部(明日楓会)との連携を密にし、生徒が主体的に活動できるように組織的に対応する。	①地域・学校協働本部(明日楓会)と連携し、学校と地域との交流に重点を置いた活動を展開し、連携生を中心としたボランティア活動やインターンシップの推進を図る。	①生徒がボランティア活動やインターンシップに興味を持ち、地域・学校協働本部と連携して生徒の支援を円滑にできたか。				
5	学校管理 学校運営	①「学び続ける教師、変化に対応できる教師」を目指し、事故のない安全安心な学校運営の推進をはかる。 ②地域との連携を深めながら、生徒にとって安全安心な学校環境を構築する。	①不祥事防止において未然防止の意識啓発をし、安全安心な学校運営を目指す。 ②地域防災を念頭に地域との連携を深め、生徒・職員に対する防災研修を充実させる。	①定期的な不祥事防止会議を開催するとともに、事故不祥事を他人事にならない雰囲気をつくる。 ②FGC員を中心に地域と連携した防火防災活動を行う。	①不祥事防止会議の講師を多くの職員に体験させることはできたか。 ②防火防災活動が実施できたか。多くの生徒・職員が参加できたか。				